

## 御師制度廃止150年記念「伊勢御師フォーラム2021」 特別講座

伊勢の御師とは、伊勢神宮の神職として全国に伊勢信仰を広め、伊勢講の仕組みを構築したお伊勢参りの仕掛け人。御師の館での祈祷とともに伊勢参りの案内、宿泊を担う一方、伊勢の町衆のリーダーとして自治都市宇治・山田の政治経済をマネジメントし、日本最古の紙幣(山田羽書)を発行、さらに国学、関学、文学者としての顔を持ち伊勢の文化的風土のリーダーでもありました。江戸時代の最盛期には大小800軒の御師が存在したのです。令和3年はそんな御師制度が廃止されてから150年の節目を迎えます。それを記念して「御師に学ぶまちづくり～衣×食×住×学×遊～」をテーマに「伊勢の御師フォーラム2021」が開催されます。当塾も共催していることから協力することになり、下記の講座を開催いたします。ふるってご参加ください。お待ちしております。

### 御師のくらし ～年中行事から見る御師のくらし～ 講師 太田 未帆

江戸時代は、月ごとに多くの年中行事がありました。伊勢には、御師の家や町の行事が書き留められた史料が現存しています。人々の暮らしを彩った月々の行事を紹介しながら、特色ある御師の日常を紐解いていきます。

日時 6月25日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 御師の館 ～御師の館の非日常と日常の空間を読み解く～ 講師 菅原 洋一 三重大学名誉教授

かつて、宇治、山田には全国からの参宮の人々を受け入れる宏大な御師の屋敷が並び、繁栄を競い合っていました。中でも最大級の御師は外宮近くの三日市大夫次郎で、三十数万の檀家を持ち、宿泊者数は最大で400～500人に及びます。これは宿泊施設としては山田最大というよりも、日本最大と言うべきものです。菅原先生は神宮文庫に残された三日市大夫次郎邸の屋敷図などをもとにして、その館の復元に取り組み、成果は三重県総合博物館の展示模型となっています。復元を通じてよみがえった御師の館の特色や、御師の館を訪れた人々の一生の思い出となったもてなし、非日常と日常の交錯する空間についてご紹介します。

日時 7月7日(水) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 御師と茶の湯 講師 浅沼 宗博 今日庵名誉師範・皇學館大学現代日本社会学部特別招聘教授

神都の都、伊勢の地は大変、茶の湯が盛んでした。宝暦のころには毎日釜が掛けられ、一町に二十数ヶ所余りにわたり「在釜」の旗が掲げられていたといわれています。「塵塚」(小田文喜著)当時、活躍した茶人たちは、神宮の御師でした。代表されるのが神都の大茶人といわれた外宮の御師杉木普齋です。杉木普齋は、千利休の孫、宗旦の門に入り千家の流れを極め、宗旦四天王の一人に数えられたほどの茶人でした。伊勢の地はもとより、筑前の黒田家、四国丸亀や播州の網干等で茶の湯を教えていました。伊勢の御師フォーラムでは、伊勢の茶の湯文化の担い手として活躍した「御師杉木普齋」にまつわる逸話や茶道観を中心に、その頃、栄えた神都の茶の湯についてご紹介します。

日時 7月10日(土) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 御師の衣装 ～神楽の衣装、正装 手代の衣装～ 講師 太田 光俊 三重県総合博物館

伊勢参宮にやってきた人びとを迎えたのが、御師たちでした。宇治山田の御師たちの屋敷では、さまざまな装束を身に着けた神楽役人によって神楽が舞われました。神楽の様子と、御師や役人たちの装束の秘密に迫ります。

日時 7月16日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名